

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな 経済フラッシュ

## (12月ECB＜欧州中央銀行＞理事会)

2018/12/14

りそなホールディングス 市場企画部

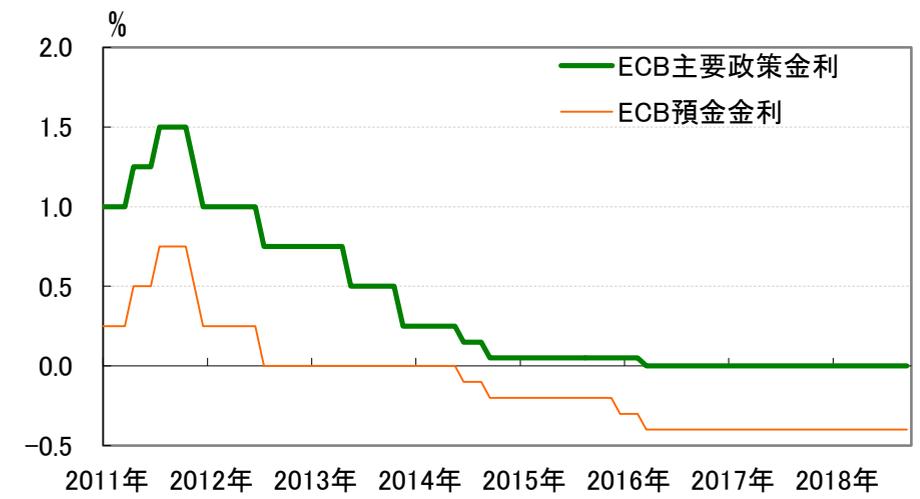


### ○概況

- ◆ 政策金利据置き、量的緩和の年内終了と2019年夏まで政策金利据え置きを再確認
- ◆ 保有債券の満期償還金の再投資は利上げ実施後も長期間継続
- ◆ 「リスクバランスは下振れ方向に動きつつある」、マイナス金利の銀行への影響を「周囲深く見守る」

- ✓ 12月13日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、政策金利を据え置き、主要リファイナンス金利を0.00%、中銀預金金利は▲0.40%、中銀貸出金利は0.25%とした。
- ✓ 以下2点を確認。①量的緩和の年内終了②2019年夏まで政策金利を据え置き。また満期を迎えた債券の償還金に関しては、政策金利引き上げ後も長期間にわたり再投資を続けるとした。
- ✓ 声明文では、保護主義の脅威、新興国市場の脆弱さ、金融市場のボラティリティ上昇をリスクとして指摘。リスクバランスは下振れ方向に動きつつあるとされ、景気に対して従来よりも慎重な見方が示された。
- ✓ ECBスタッフ見通しでは、9月時点と比較し、2018、2019年の実質GDP成長率がそれぞれ下方修正された(2018年：+2.0%→+1.9%、2019年：+1.8%→+1.7%)。
- ✓ ドラギ総裁の記者会見にて、利上げのタイミングは経済状況次第と明言を避けた。他方、マイナス金利の銀行への影響について質問が及ぶと、総裁は「注意深く見守っている」と述べ、銀行への悪影響を考慮しながら今後の政策を決定していく模様。
- ✓ 今回の会合では前回10月会合よりも、ややハト派的(従来よりも金融緩和的)なスタンスが窺えた。政策金利は2019年夏まで据え置きとの見通しだが、市場の織り込む利上げ時期は2020年まで後ろ倒しされている。利上げのタイミングに関する言及に今後着目していきたい。

### 【ECB政策金利と預金金利】



### 【ECBスタッフ見通し（12月時点）】

	2018年	2019年	2020年	2021年
<b>実質GDP成長率</b>	+1.9	+1.7	+1.7	+1.5
9月時点の見通し	+2.0	+1.8	+1.7	
<b>HICP</b>	+1.8	+1.6	+1.7	+1.8
9月時点の見通し	+1.7	+1.7	+1.7	

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項  
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。